

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十七年八月度 入選句 (投稿総数千六百六十五句・一般投句数七百三十一句)

選者 長野 美代子

特選

何もせぬ日があつていい猛暑かな

大垣市

山田 千歌子

今年はずの外暑い夏である。老若を問はず暑くて気怠い日々が続き、動けば汗が噴きだし何ともならない。何も言つてなくても納得出来る句である。仲々思つていてもこうは言い得ない。とても好きな秀句です。

涼しさや出来は不揃ひ布ぞうり

大垣市

中西 映衣子

三年ほど前に揖斐坂内の奥の諸家の里へ行ったことがある。なだらかな山に張りつくように三十軒ほど家があり、夏でも涼しい。そんな中の一軒に老夫婦で草鞋を布で作つていた。上がり端に十足ばかり並べ売つていた。木綿の布は肌ざわりもよくスリッパとして使つてゐる。自分に出ることで小商いする楽しさが見えるほのぼのした秀句です。

鳥籠はいつもからつぽ夏の果

岐阜市

宮西 美代子

お隣りに十年ほどいた鸚鵡が籠の中からいつも声をかけてくれた。どうも春頃からいよいよだ。今年はこの暑いから鳥も大変だと思ふ。今も吊るしてある空の鳥籠に何かほつとする思ひである。夏の果の季語がびつたりの秀句です。

秀逸

乗る人の来ず船頭の昼寝かな

愛知県岡崎市

矢田 あさの

木の蔭に紙置くやうに梅雨の蝶

揖斐郡揖斐川町

栗野 みねお

成績表母にほめられ夏休み

大垣市

樋口 絹子

星巖の滲む血判梅雨滂沱

養老郡養老町

田中 紫香

白雲のどれも動かず油照り

大垣市

森川 きよ子

山の宿瀬音聞き入る星月夜

大垣市

岡田 あや子

子らを待つ線香花火買ふてより

大垣市

町野 眞佐子

そつと手に夜具ひき寄せて秋近し

大垣市

大角 信華

年取らぬ写真を拭いて盆支度

大垣市

伊藤 美翠

ひんやりと革張の椅子夏館

岐阜市

石崎 宗敏

入選

夏布団蹴ったり着たりで朝むかえ  
 夏草の伸び放題に閑ヶ原  
 存問や墨書の匂ふ夏座敷  
 溪流の鮎釣 一步足掬ふ  
 蟻の道たどればこんな所まで  
 蝉の羽化見つめ続けし児の瞳  
 ほたる来い！何度呼んでも返事なし  
 たらひ舟影を揺らして昼下がり  
 何をしにしろめく道の大蚯蚓  
 青田風たんぼアートの文字揺らす

大垣市 時田 さがみ  
 東京都稲城市 萩原 一志  
 大垣市 大西 誠一  
 不破郡垂井町 内海 白涛  
 大垣市 佐竹 余史美  
 不破郡垂井町 児玉 信子  
 大垣市 幅 起志子  
 大垣市 今津 正元  
 愛知県額田郡 平松 京師  
 大垣市 高木 佐知子

入選

大の字になりて一息風涼し  
 名前だけ書いて園児の笹かざり  
 つばめの子見てゐる子らも口を開け  
 棚経の僧きようよりの薄衣  
 観覧車雲の峰より繰り出し来  
 風の盆風の流れに指しなる  
 金亀子羽音唸らす闇夜かな  
 花火終へそこはかとなく色残る  
 青田波返す事なき美濃近江  
 尾根八方花咲きそろひ秋に入る

大垣市 吉田 てるみ  
 大垣市 安田 むっこ  
 愛知県名古屋市 舘野 茂子  
 大垣市 臼井 秀子  
 岐阜市 堀江 美州  
 大垣市 高橋 柳邦  
 大垣市 傍島 豊子  
 大垣市 宮脇 和子  
 不破郡垂井町 臼井 梅乃  
 大垣市 伊藤 琴晶

選者吟

猫の耳ぴくり初秋の風の音

美代子